

2014 Vol.1特集「学びに向かう土台を築く学級づくり」へのご意見

このコーナーでは、編集部寄せられた読者の先生方からのご意見をご紹介します。

※「VIEW21」小学版のバックナンバーは「ベネッセ教育総合研究所」ウェブサイト(<http://berd.benesse.jp>)でご覧いただけます。

◎30年前、初任時に先輩の先生から繰り返し言われたのは「まず学級づくり」です。その後も、いじめ、不登校、中1ギャップなど、課題が出るたびに、学級は子どもが安心して生活できる場であるのかを問い返しました。学びに向かう環境としての学級づくりは、教師の資質と関連性が高いのではと思います。「安心して学べる環境づくり」が、私の学校経営の中心です。[鹿児島県/O小学校]

◎「学びに向かう土台を築く学級づくり」は良い特集でした。若手教員が増え、指導方法に目が向きがちですが、まず学級づくりがあり、そこがしっかりしていると、次の学びの成長へとつながります。特に、総論の杉田洋視学官の話は、何回読んでもしっかりとさせられます。管理職は孤独に強くなる必要があるが、孤立してはいけません。その通りだと思いました。[山口県/J小学校]

◎総論での「壁を与えることに臆病にならず、張り合いのある集団活動を」という杉田視学官の言葉は、学級、学校を問わず、今、必要とされることだと思います。何事にも皆が臆病になってきており、そのことが教育を停滞させている原因だと思いました。[熊本県/M小学校]

◎東京都品川区立小中一貫校在原平塚学園の実践では、複数の教員で児童の指導に当たる方法が具体的に明示されていました。この仕組みを参考にして本校に合ったものをつくっていきたいと思います。また、家庭の教育力に差があることに着目し、マニフェストを作成して保護者会で示していることも、学校の信頼を高める意味でも有益だと思いました。[東京都/T小学校]

◎山梨県山梨市立日川ひかわ小学校の「プロジェクト活動の積み重ねで子どもと共に学級をつくる」の取り組みで、教師主導のあり方を見直し、子どもと一緒に学級をつくるということに共感しました。学級力アンケートのレーダーチャートは目に見える評価であり、成果がよく表れていると感じました。[岡山県/M小学校]

◎「私を育てたあの時代、あの出会い」の中に「自分が変わること、周りの先生方との関係も良い方向に進む」という言葉がありましたが、今、まさに実感しています。校長として新しい学校に赴任し、関心を持って自分を迎えてくれた教職員一人ひとりを大切にするために、声掛けを惜しむことなく過ごしています。[岐阜県/M小学校]

◎「Benesse 発 これからの教育」で紹介された「ピブリオバトル」は、聞いたことはありましたが、記事を読むまではよく分かってはいませんでした。各学年の国語の教科書に「本を紹介しよう」という単元があります。本を紹介するという目的意識を強く持たせることが難しいと考えていたので、発達段階に応じてアレンジしていくことが可能な活動だと思いました。[北海道/U小学校]

◎「つながる学校と家庭の学び」の「じぶんコントロールカード」のように、自分で目標を立て、それを振り返りながら毎日過ごすことは、キャリア教育の観点でも有効で、学校と保護者が共有できるのも良いです。ただ、記述が苦手な子どもも多く、保護者の価値観・生活観が多様化し、教師も多忙です。出来るだけ簡単に記録できる形式にし、継続したいと思います。[東京都/K小学校]

子どもは未来

ベネッセ教育総合研究所は、
子どもたちの成長に寄り添う研究と
社会への発信を通して、
一人ひとりが学びに向かい、
今と未来を“よく生きる”ことに貢献します。

ベネッセ教育総合研究所

次世代育成研究室 初等中等教育研究室
高等教育研究室 グローバル教育研究室
情報編集室

編集後記

「自ら学び考え、行動する力」を子どもに付けるため、先生方は出番を見極めることや、子どもの課題を指導の課題として捉える姿勢を大切にしているという言葉が印象的でした。そして、実践にあたっては、熱心な先生が1人で抱え込まないための“同僚性”も大切だと教えていただきました。今号で紹介したワークショップの手法が、先生方が学び合う風土づくりの一助になればうれしく思います。[VIEW21]小学版 編集長 杉田美穂

VIEW21 小学版 2014 Vol.2

2014年10月2日発行 / 通巻第41号

発行人 谷山和成
編集人 小泉和義
発行所 (株)ベネッセホールディングス
ベネッセ教育総合研究所

◎お問い合わせ先

情報編集室
〒206-0033
東京都多摩市落合1-34
電話 042-311-3390

印刷製本 凸版印刷(株)
編集協力 (有)ペンダコ、丹羽三千代
執筆協力 二宮良太
撮影協力 荒川潤、川上一生
イラスト協力 幸剛、浅沼リカ

© Benesse Holdings, Inc. 2014